

令和5年度(2023年度)北海道拓北養護学校 第1回学校運営協議会(記録)

日 時	令和5年7月19日(水曜日) 10時00分～11時15分
場 所	北海道拓北養護学校 会議室
出 席 者	菊 池 健 一 様 (拓北興産社町内会 会長) 丸 田 貴 久 様 (札幌協働福祉社会アクティビティセンター施設長) 永 沼 秀 美 様 (北海道拓北養護学校 PTA 会長)
対 応 者	北海道拓北養護学校 校 長 仲 條 正 輝 副校長 鴻 江 康 人 教 頭 藤 原 裕 美 事務長 諏 訪 文 重 主幹教諭 新海 真由美
〈欠席〉	池 田 千 紗 様 (北海道教育大学札幌校 准教授) 高 橋 くに子様 (NPO 法人自立支援センター歩歩路 副理事長)



【内 容】

1 開会の挨拶(学校長)	・開会の挨拶と学校側対応者の紹介
2 委任状交付	・学校長より委員の方々に委任状を交付する。
3 説明事項	
(1)令和5年度学校経営について ※資料	○令和5年度 学校経営について ※資料に沿って学校長より説明する。 ・新学校教育目標について ・学校経営方針について ・今年度の重点教育目標と教育活動と経営活動の重点について ・新たな取り組みと継続的な取り組みについて
(2)コミュニティスクールについて ※資料	○コミュニティスクールについて ※資料に沿って副校長より説明する。 ・これまでの実績をベースとし新たな価値基準(アフターコロナ等)を踏まえた「地域との連携・協働」の在り方を考える。 ・本校におけるコミュニティスクールとは?目的について ・今年度は設置初年度とし、土台固めの構想での基盤づくりについて ・「学校運営協議会」の活動について ※今年度のスケジュール含
4 説明事項の質疑応答	○説明事項等への質疑応答 ・地域と一緒に目指す学校づくりを考えた時、副学籍制度についてと就学時の教育相談について話を聞きたい。 →公的な取り組みはないが、地域交流学习(居住地交流)が北海道ではそれにあたるのではないかと考える。学びのベースは在籍している学校と考える。地域で学ぶということについては、御意見を受けとり伝えて行きたい。 ・他校とのハンドアーチェリー交流会について知りたい。 →本校を含め3つの肢体不自由校の中学部生徒が、ハンドアーチェリーの交流試合をして3年目になる。8月に行われるスポーツ大会での交流競技としても取り組むことになり、ハンドアーチェリーやボッチャ等を通じて、社会参加への広がりにも期待している。 ・拓北養護学校の児童生徒の居住地についてと通学方法について知りたい。 →校区は主に札幌市内では北区、西区、東区、手稲区となっている。その他、江別市、石狩市、当別、南幌、岩見沢。通学方法については、自家用車での送迎や福祉サービスを利用した通学となっている。スクールバスについては、現在4台となり、地域別にコースを設定し運行させている。 ・新学校教育目標について、教職員全員で話し合いを勧め、目標を掲げたことに感銘を受けた。小学部から高等部までの子供たちへの願いが「しなやかに育つ拓北の子」に込められていると感じた。 ・コミュニティスクールについては、説明のように、「地域と共にある学校」を目指すべきだと感じている。3年間かけて、一緒に築いていけたらと思う。 →コロナ禍以前と同じように始めることは難しいこともあるが、現在の社会情勢も鑑みながら、再び地域社会と一緒に一歩ずつ踏み出していければと考える。



5 閉会の挨拶（学校長）	・委員の皆様からいただいた御意見をもとに、コミュニティスクールにつなげていきたい。様々な取り組みから生涯学習（楽しみや生きがい）へ、そして達成感や自らやってみたい、挑戦しようという思いにつながっていくことが大切だと感じている。そこで得た学びと培った力を地域に向けた取り組みで発揮していける様になると良い。地域への関心を持ち、また地域からも関心を持ってもらい、互いを知ることから大切にしてい進めていきたい。資源はまだまだ眠っているのではないかと可能性を感じている。よろしくお願いします。
6 次会についての確認 （副校長）	・次会は11月中旬予定。 学校経営の状況についてと、コミュニティスクールについて熟議していく。 それぞれにアイデアを持ち寄り、協議を深めていく。

◆校内参観・・・全体会終了後、校内参観（全学部の授業、給食の様子等）